

今月の PICK UP

『Iは赤い。そして世界は緑と青でできている。』

望月 菜南子/著 飛鳥新社 491.3モ

「共感覚」という言葉を聞いたことがあるでしょうか。共感覚とは、1つの刺激に対して2つ以上の感覚を感じることであり、文字に色を感じる(色字)、音に色を感じる(色聴)、音に味を感じる、味に形を感じる、痛みに色を感じるなど、様々なものがあるようです。

本書は色字共感覚を持つ大学生の著者が、共感覚者としての経験を綴った記録です。九九は色の組み合わせで覚えて大得意だった、鍵盤ハーモニカに貼られた色シールは自分が感じる色と違うから大混乱だったなど、興味深いエピソードが多数収録されています。文字に彩られた素敵な人生を少し覗いてみませんか。



『こまいぬ I』 宮本 和義/写真・文 アトリエ M5 175.5ミ

全国の神社に置かれている160匹のこまいぬ(狛犬)と出会える一冊です。石工の名人が作った立派な狛犬もありますが、無名の石工の手による狛犬の表情は、より個性的で愛嬌があり見入ってしまいます。

身近な神社にはどんなお顔の狛犬がいるのでしょうか。会いに行きたくなります。



司書の おすすめ

『フランスの小さな村を旅してみよう』 木蓮/写真・文 東海教育研究所 293.5モ

フランスの小さな村・そう聞くだけで一度は行ってみたいという気持ちが湧いてきます。そして「本当にそんな場所があるの?」と疑ってしまうほど美しい風景が満載です。できれば旅人ではなく住人になってみたい。コロナがなければ、と悔しく思う一方でコロナが収束したら、と夢が広がります。

著者は、結婚後フランスの片田舎に住んでいる人気ブロガー。美しい写真と住人ならではの文章で、ひととき癒しの時間を。



『祝!結婚した』 花井 達/著 赤々舎 748ハ

仏壇に挨拶する盛装の新郎新婦。その姿を、膝をついて身を乗り出すようにして見ているおばあちゃん。着付けをしてもらう女性陣の横で、アルバムをめくるお父さん。遺影に傾けられる盃。儀式に飽きた子どもたちの正直な表情。長年ブライダル・フォトの仕事に携わってきた花井達さんによる、様々なカップルの「結婚式の日」の写真集。微笑ましくもホロリとくる祝意に満ちた情景が収められています。



『働くわたし』 本の雑誌編集部/編 本の雑誌社 366.3ホ

働く事、働ける事がすばらしいと、苦難や転機を乗り越え、どの場面でも一生懸命仕事している20才から80才までの女性14人のインタビュー集です。彼女達と同じ葛藤は、誰にでもある。そんな時『あの人がいる』という心の支えにもなり勇気を与えてくれる、そんな一冊です。末編の「働くわたし ブックガイド」にもロールモデルになる本が紹介されています。

